

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.0	0.15	3.1	1.00		3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.2	0.40	3.3	0.40		
1 開口部遮音性能		開口部の遮音性能はT-2とした。		5.0	0.40	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能		-		2.0	0.60	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		-		3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		-		3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.6	0.25	4.1	1.00		2.7
3.1 昼光利用				1.8	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		病室では、十分昼光利用できるよう、大型の開口部を設置している。		1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口		-		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		病室はカーテン・庇を組み合わせて昼光を制御している。		3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		-		3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		病室のベッドには、ヘッドライトを設置し個々で制御可能とした。		3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気環境				4.4	0.25	4.2	1.00		4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		化学物質の放散量が少ない建材を全面的に採用した。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		-		3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		敷地全体を禁煙とした。		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.8
1 機能性				3.9	0.40	4.8	1.00		3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室・多床室ともに十分広い病室となるよう計画した。		3.0	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	4.5	0.40		
1 広さ感・景観		病室の天井高さは2.6mとした。		3.0	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		-		3.0	-	-	-		
3 内装計画		CGやパースにより、加点項目を検討した。		5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内装仕上げは清掃しやすいような材料を採用した。		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.1	0.30	-	-		4.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置を設置している。		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		水セメント比50%以下、誤差を考慮した被り厚さの確保等		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房排気、多湿排気にステンレスダクト		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VA、VB(B)、給湯SUS(C)、通気SGP(B)		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水器具、雨水中水利用、災害時用排水槽		4.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電設備・無停電装置の設置、一部受変電設備の二重化等		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.5	0.30	3.8	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	4.6	-	0.50
1	階高のゆとり	階高は4.5m以上としている。	5.0	0.60	5.0	-	0.60
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は共用部は0.13、病室部は0.21とし、自由さを確保した。	4.0	0.40	4.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	-
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	-
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	-
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	-
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	-
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	-
6	バックアップスペースの確保	受変電設備・発電機の更新用スペースを確保	4.0	0.20		-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法による計算、BPI _m =0.76	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		-	2.3	0.50	-	-	2.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4.1	モニタリング	-	3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制	-	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓、擬音装置、節水型便器	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている。	4.0	0.70	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.11	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎杭のセメントに特定調達品目を用いている。	5.0	0.22	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		捨てコンセメント、断熱材、タイルは特定調達品目を採用。	5.0	0.22	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		-	3.0	0.22	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	-
1	消火剤	窒素ガス消火設備	4.0	0.33	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-	-
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出量95%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		-	2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	雨水貯留槽を設置している。	4.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	交通量の事前調査等を実施した。	5.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音	-	3.0	0.50	-	-	-
2	振動	-	3.0	0.50	-	-	-
3	悪臭	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	-
3	日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0			○	○	○	○						○	○	
2.4.1 空調・換気設備	-		-	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	○	-	-						
2.4.3 電気設備	5.0	4.0	○	○	○	○	○	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	-	-	1.0	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-				
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-				-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		1.0	-	-	3.0	-	-	-	-	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											

主な指標

Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 4.2%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 8.4㎡/床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.6 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 100 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.5 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.13、0.21
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 - 建物緑化指数 -
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.76 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.94 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 14.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 捨てコンクリート、Eコマース商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 - 隣棟間隔指標R _w - 地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 - 見付面積S _b ㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s - m 基準高さH _b - m 緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡